

沙羅の樹文庫だより

NO. 199 (23年6月号)



雨の歌

山村暮鳥

雨がふる
 雨がふる
 　さびしい雨滴でも聴かうか
 　いや、いや
 さうだ
 　鞭打つように
 　蹴るように
 つよく、つよく
 はげしく
 　つよく、はげしく
 　　　　　　ふつてくれ

今年も3密を避け予約制で開館しています

2023年

6月17日(土)、18日(日)
 7月15日(土)、16日(日)
 8月19日(土)、20日(日)
 9月16日(土)、17日(日)
 10月14日(土)、15日(日)
 11月18日(土)、19日(日)
 12月16日(土)、17日(日)

★12月17日午前はクリスマス会★

開館時間：土曜日 13:00~17:00
 日曜日 10:00~15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会
 文庫のある日曜日 10:30~11:00

おはなし沙羅・おはなし勉強会
 文庫のある土曜日 10:30~12:30

沙羅の樹文庫

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122
 ☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

♡ 沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫 ♡
 〒413-0232 伊東市八幡野 924-1
 ☎0557-54-1910

開室日：水曜日 13:00~15:00
 日曜日 10:00~15:00



久しぶりに東京自宅の紫陽花が咲きました。

文庫あれこれ ◊ 梅雨です。雨の音を聞きながら書いています。でも梅雨ってこんな勢いよく降りましたっけ。ジトジトとでザーザーではなかった記憶が。◊ 15日の梅雨明け予想 No.1 によると、東海・関東は7/19とか。◊ 16日金曜日、文庫に来ました。姫沙羅の花が庭に落ちて、それはいいのですが、先月塗り直したウッドデッキに山のように堆積して、掃除したら、折角の塗り立てが、雨も影響してか変色。こすり取ったら、何でペンキ塗ったのか。トホホです。◊ 庭の雑草も好き放題伸びています。どなたか安く手入れしてくださる方、知りませんか。



ジャストジョーイ

◊ スタッフ2人が絵本の部屋の整理にきてくれ、ノース・フレグランス 別の1人はダンボールを片付けてくれ嬉しくなりました。ないスペースに本を詰め込んで探しやすい術なんてないですよ。◊ 今日は晴れ、青空が広がって風もなし。週末、高温になりそうですが、夏の熱暑はまだという肌感覚です。◊ 世界は愈々きな臭くなってきました。



日本でも、ほとんど毎日のように人が人を殺めるニュースばかり。◊ ウクライナのダムが決壊して地域が濁流に飲まれているニュースの中、数日前、朝日・天声人語に、昔、支那事変で、進軍する日本軍を食い止めようと、中国が黄河を決壊させ、それで、莫大な人数の中国人が犠牲になったと書いてありましたが、人は、為政者は考えられない愚業をするのですね。◊ 周りで、体調を崩したり、思いもかけない病気になっている人がいます。年だから仕方のないのも気重ですが、みんな気持ちよく暮らせませう。◊ 買いもののついでに大型本屋さんを覗きました。ネットや新聞に出ていない本が沢山。狭い選書で恐縮です。新刊、何冊か入れました。(Sさんからのバラ、今回はオレンジ系で)



カレイドスコープ

思い出すことⅢ～イギリスの風が吹いている～ 池村 奈津子 (京都家庭文庫地域文庫連絡会)

初めてのイギリスの旅から2年後、体調は今一つとはいえ、「行ける時に行こう」と再び計画を立てました。二度目の旅は『嵐が丘』の舞台、ハウースのブロンテカントリーや『グリーン・ノウ物語』の舞台です。ヨーク駅の窓口で切符を往復買おうとしたら、何と12時から三日間国鉄のスト。今日中にどうしたら帰れるだろうかと思案しつつ、帰りはタクシーを覚悟して片道切符で乗り込みました。駅からは『嵐が丘』の廃墟のあるところに行けるはずだと、何時間もひたすら歩き続けたのですが、これが雨の日だったら、まさに『嵐が丘』になっていたでしょうね。帰りはバスを乗り継ぎ、かなり遅くなりましたが無事に宿に帰りました。

グリーン・ノウの館には電話で予約を入れておいて出向きました。ボストンさんの息子夫妻がその屋敷に住みながら見学者に開放してくださいました。おお！庭の様子や玩具まで、物語の挿絵そのままではないですか。

ある本に、「一つの国を理解する最善の途は、その国に対して愛情を持つことである。その国の自然と風景を愛し、歴史、芸術、思想、宗教に深い理解を持つことが最善の方法である。」と書いてありました。確かにそうで

すね。イギリスという言葉を目にすると、ワクワクドキドキしてしまう、今で言う「推し活」です。

南西のコーンウォール、セント・アイヴィスでは、J.P. ウォルシュの『夏の終わりに』『海鳴りの丘』などの舞台となったゴールデン・グローブ荘で3泊し、周辺のケルトの石組みや、V. ウルフの『灯台へ』のモデルにもなった地へ足を延ばしました。

ダービシャーでは、A.アトリー作『時の旅人』のマナーハウスへ。グルーム夫人が、駅まで迎えにきて下さり、アトリーの生家訪問のハプニングも。



アトリーの生家



ウィングフィールドマナー

ていただき、親切をいっぱい受けました。

その後も、ウエストールの作品舞台を回ったり、読んでは計画を立てて、一人旅を楽しんだ日々。今でも、あちこち歩いてきた情景が目の前に浮かんできます。思い出の詰まった年月でした。

フィリップ・ピアスの作品から始まったイギリスへの旅が、私の中で大きく膨らんでいきました。しかし、2011年のクリスマスイブのバイク事故で人工骨頭置換手術を受けて以来、残念ながら、海外旅行が出来なくなりました。・・・でも、行けるのなら・・・憧れです。(完)



★『時の旅人』、読み直しました!!
ベネロピになった気分、時を
遡りました!!
奈津子さん素晴らしい経験を
されましたね。

★池田正孝著『世界の児童文学
をめぐる旅』『英国児童文学の
舞台を訪ねて』も読み返しました。
私も、自著『ふくろ小路のそま
た向こう』に書いた、読んだけど
書かなかった、そして未読の、た
くさんのイギリスの子ども本の
世界を旅してみたくくなりました。
有り難うございました。



23.6月に入る子どもの本

絵本

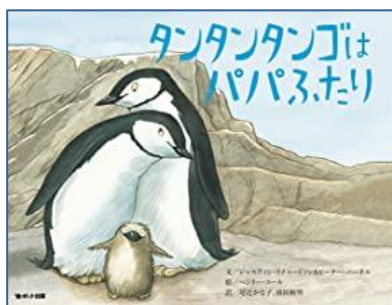
『レミーさんのひきだし』（斉藤倫/うきまる作
くりはらしれい絵 小学館 1956）ID13914
『タンタンタンゴはパパふたり』（ジャスティン・
リチャードソン&ピーター・パーネル文 ヘンリー・
コール絵 尾辻かな子/前田和男訳 ポット出版
）ID13918
『かぞえうたのほん』（岸田衿子作 スズキコー
ジ絵 福音館書店 1990）ID13915

読みもの

『父さんが帰らない町で』（キース・グレイ著 野
沢香織訳 徳間書店 2020）ID13916
198650803
『奉還町ラブソディ』（村中李衣作 BL 出版
2022）ID13919

参考図書ほか

『「100 まんびきのねこ」たちはどこから生まれ
どこへいったの』（村中李衣著 ブックグローブ社
2023）ID13917



23.6月に入る大人の本

フィクション

『白鶴亮翅』（多和田葉子著 朝日新聞出版
2023）ID19024
『植物少女』（朝比奈秋著 朝日新聞出版 2023）
ID19025
『上海灯蛾』（上田早夕里著 双葉社 2023）
ID19026
『鈍色幻視』（恩田陸著 集英社 2023）
ID19027
『風配図』（皆川博子著 河出書房新社 2023）
ID19028
『時々、慈父になる。』（島田雅彦著 集英社
2023）ID19029
『土竜』（高知東生著 光文社 2023）ID19030
『はるか、プレーメン』（重松清著 幻冬舎
2023）ID19031
『赤い月の香り』（千早茜著 春日井晶子訳 集英
社 2023）ID19032
『木挽町のあだ討ち』（永井紗耶子著 新潮社
2023）ID19033
『台湾漫遊鉄道のふたり』（楊双子著 三浦裕子訳
中央公論新社 2023）ID19020

『メイ・サートン 終盤戦 79歳の日記』（メイ・
サートン著 生島幸子訳 みすず書房 2023）
ID19035
『文明交錯』（ローラン・ピネ著 橋明美訳 東京
創元社 2023）ID19034

エッセイ ほか

『くもをさがす』（西神奈子著 河出書房新社
2023）ID19018
『文学する中央線沿線-小説に描かれたまちを歩く』
（矢野勝巳著 ぶんしん出版 2023）ID19021.
『ことばのくすり』（稲葉俊郎著 大和書房

2023）ID19019

『種をあやすー在来種と暮らした 40年のことば』
（岩崎正利著 亜紀書房 2023）ID19023

新書

『歴史のダイアグラム 2号車ー鉄路に刻まれた、
この国のドラマ』（原武史著 集英社新書 2023）
ID19022

文庫

『音楽は自由にする』（坂本龍一著 新潮文庫
2023）ID19017
『空芯手帳』（八木詠美著 ちくま文庫 2023）
ID19016
『下山事件ー最後の証言』（柴田哲孝著 祥伝社文
庫 2007）ID19036



読んで、みました♡

澤口杜志

奉還町ラプソディ

(村中李衣/作 石川えりこ/絵 BL 出版 2022)

『奉還町』とはちと珍しい名前。タイトルからして大いに興味が湧いてきます。大政奉還がなされ武士の時代が終わり、明治維新で職を失った武士が退職金(家禄奉還金)をもらい旧山陽道沿いで商いを始めたのが由来の商店街。

現在日本中どここの商店街もシャッターが閉じて寂れて悲しい限りです。ご多聞に漏れず、この岡山市の奉還町商店街も同じ。一口に言えば寂れた奉還町商店街の危機回正の物語・・・といったところでしょうか。

それにしても出てくるお年寄りの一筋縄では行かない個性的なこと!

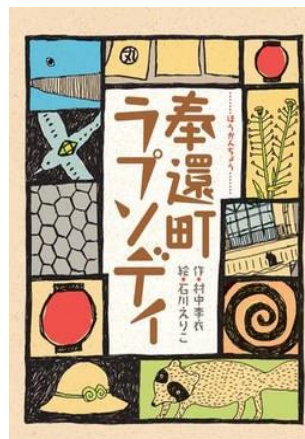
奉還町商店街近くに山口県から越してきた小学生のさとし君と、商店街の饅頭屋のあつし君は、おはぎやぜんざいが大好きな子どもらしい男の子。この商店街のお年寄り達と交流していくのですが、高齢化の問題、日本在住外国人のこと、戦争のことなどが盛り込まれていて考えさせられます。イラストもよく、ページにも工夫されています。130P~131P は明太子色。何故かは「思い出の明太子」の章を読んでみて!

岡山市には友人がいて、そのおっとりした岡山弁が大好きなのですが、作者・村中李衣さんの「奉還町ラプソディ」にまつわる新聞記事を送ってくれました。

村中李衣さんは元々岡山市在住ですが、岡山市にあるノートルダム清心女子大学の教授でいらして、家族と離れて岡山市内にアパートを借りて住んでいらっしゃるそうです。

そのアパートは奉還町商店街を抜けたところがあるエピソード満載のこの物語が誕生したようです。リアル感があるのはそのせいですね。

綺麗ごとは全くなく決してハッピーエンドではありませんが、ユーモアがあり読後は爽やか。年をとるのも悪くないと思わせてくれます。さとし君とあつし君みたいな子が側にいてくれれば幸せと思いました。(盛岡・うすゆき草文庫)



★今回偶然、村中さんの本が2冊(もう1冊は、「100まんびきのねこ」たちはどこから生まれどこへいったの)です。ガアグの名作をいかにお料理したのか、興味津々ですね。



徒然なるままに・・・(さ・ら)

◻<旅なし days>が続きます。◻5月の文庫が終わって昨日15日まで、普段読まなかった分野の本を何冊か読みました。町田市では月に1度、市の文学館主催の<大人のためのおはなし会>があります。そこでは、町田ゆかりの作家紹介から始まります。私は昨日、作家紹介の当番でした。担当したのは、元朝日新聞で田中角栄の番記者だった「早野透」さん。角栄のイメージが変わっただけでなく、戦後の政治事情を学ばせてもらいました。こんな機会がなければ読まない本でした。もっと、彼の本、彼の放談(ユーチューブで)をと思いましたが、早野さん、昨年11月逝去。残念です。来月、何冊か文庫に持ってきます。お読みください。

☔鬱陶しい梅雨です。でも、子どもの本には楽しい雨の絵本があります。時には、子どもと、孫と、雨降りを楽しみませんか。☔『コッコさんとあめふり』(片山健さく・え 福音館書店)、『あめあめふれふれねずみくん』(なかえよしお作 ポプラ社)、『あめふり(ばばあちゃんの絵本)』(さとうわきこ作

福音館書店)、『あめあめばらん』(木坂涼作 松成真理子絵 のら書房)、『あめぼぼ』(ひがしなおこさく きうちたつろうえ くもん出版)『あしたのてんきははれ?くもり?あめ(かがくのとも絵本)』(野坂勇作 福音館書店)、『あめのひ』(サム・アッシャー作 吉上恭太訳 徳間書店)、『あめのひ』(ユリー・シュルヴィッツ作 福音館書店)、『雨、あめ』(ピーター・スピーア作 評論社)、『まりーちゃんとおおあめ』(フランソワーズぶん・え 福音館書

店) 等等... ☔そして雨傘と言えば、『おじさんのかさ』(佐野洋子作 講談社)は、あなたにおすすめ!! 子どもたちが小さい時、どれで読んだか、『あまがさ』(やしまたろう作 福音館書店)は忘れられません。傘の上でたてる雨の音!! ☔梅雨の季節こそ雨を楽しみましょう。☔今月の表紙は、雨傘祭りです。

←雨に濡れたかすみ草ローズ

